



西宮渡辺病院
西宮渡辺心臓・血管センター

発行元：西宮渡辺病院

〒662-0863 西宮市室川町10番22号
TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257

ホームページ <http://www.n-watanabe-hosp.jp/>

2010.7.1

vol.49



無事4周年を迎えました。

社会医療法人 渡邊高記念会 名誉理事長 渡邊 高

『むろかわNews』は院内広報誌として2002年10月に第1号が発刊された。本年4月1日より当法人は「特別医療法人」から「社会医療法人渡邊高記念会」となり、この変遷を見守り続けた『むろかわNews』も、もうすぐ第50号の発刊を迎える。

阪神淡路大震災の折、近隣は大きな被害を受けたが、改築・立替工事直後の当院は健在で地域の皆様へ医療の提供ができたことに喜びを感じた事を思い出す。病院前を走る阪急電車の高架の断裂をテレビで知ってか、問い合わせが殺到した事も思い出の一つと言える。病院として何ができるか、地域の皆様に役に立つ情報を公開できないか、この時の思いも『むろかわNews』発刊の動機の一つとなったと思う。

昨年はノロウイルスによる感染性腸炎、新型インフルエンザが流行したが、感染対策が行われたおかげで、拡大を防止、地域に限定して終焉した。私共法人の広報誌である『むろかわNews』が当院における感染予防・感染対策などの情報を発信し、蔓延の抑止力の一端を担った事は私の喜びであった。

今回の第49号は池田町の3施設、『西宮渡辺心臓・血管センター』、介護老人保健施設『ハートケア西宮渡辺』、疾病予防運動施設『健康塾』の4周年の記念号でもある。病院の歩み、行った医療の情報がストレートに伝達され、広報誌を通して私共法人の歩みが伝わればと願っている。

無事4周年を迎え地域医療への貢献に確かな手応えを感じ始めた3施設の発展に改めて喜びを感じるとともに、広報誌『むろかわNews』で4周年を報告出来たことにも大きな喜びを感じている。

今回の『むろかわNews』では、例年梅雨明けから流行の兆しを見せる食中毒・感染性腸炎の予防策も内容に盛り込ませて頂いた。食前の「手洗い、うがい」の大切さ、都市部の生活、特に集団生活(グループホーム、特養等)で必須な生活習慣の改善を皆様に知って頂きたいという思いである。ぜひ参考にして頂きたい。

余談だが、過日、熊本の阿蘇山のふもとで展開されている特定医療法人熊本リハビリテーション病院を訪れた。15年ぶりの訪問であった。この地もまた、活断層の上で生活し、医療を提供している。病院施設はどうあるべきかを15年前と比べる機会となった。熊本リハビリテーション病院もまた私共と同様に進歩と改善を重ねていた。私共の病院と同様に、研修会や講演会が行われ、医療情報が地域へのメッセージとして送られていた。各職種専門スタッフの協力で急性期から回復期を経て在宅に至るチーム医療に取り組んでいた。

中核市西宮で医療・介護のメッセージをどうお伝えするか、地域の皆様のご指導、ご支援の程よろしくお願い致します。

社会医療法人 渡邊高記念会 理事長 佐々木 恭子

6月1日、『西宮渡辺心臓・血管センター』、『ハートケア西宮渡辺』、『健康塾』は無事4周年を迎えることができました。微力である私共へのご支援と御協力に感謝致しますと共に、皆様のご期待にお応えするための更なる努力を誓いたいと思います。

今年4月社会医療法人となった私共法人には、今まで以上に皆様の健康維持への貢献が求められています。池田町の3施設も本院『西宮渡辺病院』と共に皆様の生命と健康を守る歩みが求められている事と考えます。

お陰様で『心臓・血管センター』は地域を代表する循環器専門病院として、その手術数、心臓カテーテル数を誇るまでに成長しました。

『ハートケア西宮渡辺』は、都市型小規模老健として皆様

のご支持を頂いています。

兵庫県初の疾病予防運動施設として誕生した『健康塾』も会員数300名を越え、安心して運動できる施設、健康維持のための運動施設として確実に定着し始めています。私共の医療は皆様との共同作業によって初めて成立します。国民である私達の心の迷いが政治や経済の混乱と混沌に反映されているかに見えるこの国にあっても、「健康でありたい」、「この地域で安心して暮らしたい」という私達の願いは普遍であり、この願いに向かつての皆様との共同作業が私共の使命であろうと考えています。

45周年を迎えた本院『西宮渡辺病院』と共にどうか末永くご支援頂ければと願います。

よろしくお願い致します。

熱中症とは？



西宮渡辺病院 脳神経外科 植田 昌平

熱中症とは、熱に“中(あた)る”という意味で、暑熱環境によって体温の調節機能が破綻し、体内の水分や塩分のバランスが崩れて生じる障害の総称で、時として、早期対処しないと死に至る可能性のある病態です。

熱中症の病型として、熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病の4つがあります。

【熱失神】

皮膚血管の拡張によって血圧が低下、脳血流が減少しておこるもので、めまい、失神などがみられます。

【熱けいれん】

暑熱環境下で長時間の運動をして大量の汗をかく時におこるもので、水だけを補給して血液の塩分濃度が低下した時に、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴ったけいれんがおこります。

【熱疲労】

大量の汗をかき、水分の補給が追いつかないと脱水がおこり、熱疲労の原因となります。脱水による症状で、脱力感、倦怠感、めまい、頭痛、吐き気などがみられます。

【熱射病】

体温調節の中枢機能に異常をきたした状態です。40℃以上の異常な体温の上昇と意識障害(応答が鈍い、言動がおかしい、意識がない)が特徴で、頭痛、吐き気、めまいなどの前駆症状やショック状態などもみられます。多臓器障害を合併することが多く、死亡率が高いです。

熱中症は予防が大切です。適切な予防法を知っていれば防げます。日本体育協会が平成5年に「熱中症予防の原則」として右記の8ヶ条を公表しています。参考にしてください。

室内でも熱中症になります。特に高齢者はこまめに水分をとるように努め、睡眠中の熱中症を避けるために寝る前にも水分をとりましょう。入浴はぬるめの湯で短時間に、また暑さを感じにくくなるため部屋に温度計などを置き、窓を開けて風通しをよくして、高温環境下を避けましょう。

ちなみに余談ですが、『オーエスワン』(OS-1・大塚製薬工業)という飲料があります。これは厚生労働省許可・特別用途食品個別評価型病者用食品で、WHO(世界保健機関)の提唱する経口補水療法の考えに基づいた飲料です。経口補水液は、水分と電解質をすばやく補給できるようにナトリウムとブドウ糖の濃度が調製されており、軽度から中等度の脱水状態の水分・電解質補給に適しています。(西宮渡辺病院外来受付横の自販機においてあります。)

熱中症 予防8ヶ条

1. 知って防ごう熱中症
2. 暑いとき、無理な運動は事故のもと
3. 急な暑さは要注意
4. 失った水と塩分を取り戻そう
5. 体重で知ろう健康と汗の量
6. 薄着ルックでさわやかに
7. 体調不良は事故のもと
8. あわてるな、されど急ごう救急処置



細菌性食中毒をご存知ですか!?



今年も暑く、湿気の多い季節がやってきました。夏バテや夏風邪にならず夏を楽しむ為にはしっかりとした食事を摂ることが大切です。

しかし、夏場は細菌の繁殖が増え食中毒が多発する季節でもあります。冬場に注目を浴びたのは

ノロウイルスですが、夏場は細菌による食中毒が多発します。

日常生活の中でいい加減になりがちな家庭での衛生管理を見直し、安心した食生活を送りましょう。

食中毒を引き起こす細菌とその症状

| 菌名 | 要注意食品 | 症状 | 潜伏期間 |
|----------|------------|---|---------|
| サルモネラ菌 | 卵・肉 | 発熱(38℃~40℃), 腹痛, 粘膜便 など (風邪と間違われやすい) | 10~72時間 |
| 病原性大腸菌 | 肉・(井戸水) | 腹痛, 下痢, 血便 など | 2~9日 |
| 腸炎ビブリオ | 魚介類・食品全般 | 腹痛, 下痢 など | 5~20時間 |
| 黄色ブドウ球菌 | 手の傷から食品に付着 | 嘔吐, 腹痛, 下痢 など | 約3時間 |
| カンピロバクター | 主に鶏肉 | 下痢, 腹痛, 発熱, 頭痛, 嘔吐 など (近年発生率が非常に高い) | 2~5日 |

食中毒予防の注意事項と対策

- ①**清潔**・・・手洗いをしっかりと行い、食品の取り扱いを清潔に行いましょう。
- ②**迅速**・・・調理後の料理はできるだけ早く食べましょう。
- ③**冷却と加熱**・・・食品の加熱をしっかりとおこないましょう。また、傷みやすい食品は冷蔵庫での保管を行いましょう。

管理栄養士 雑賀 妙子

西宮渡辺病院 看護部着任紹介

2病棟師長 松原 一美



5月17日より2病棟に配属

されました。病棟の患者様の年齢は80~90歳が多く、認知症で不穏が見られることがあります。そのため、転倒がないよう、安全にリハビリが目標レベルまで達成されるよう管理していくことが重要と感じています。リハビリスタッフ、看護師、看護助手と協働し、患者様にここで、リハビリをしてもらってよかったと思っています。できるよう努力していこうと思っています。よろしくお願いします。



6病棟師長 板楠 利恵子



昨年9月に西宮渡辺病院に入

職。5病棟へ配属され、早いもので9ヶ月が経ちました。前職まで超急性期で約10年間を過ごしたので、整形・亜急性病棟の時間の流れの穏やかさに面食らい、居心地の悪さに戸惑いを感じる毎日でしたが、今回6病棟Openに伴い、病棟師長の任を受けることになりました。

しばらく管理職を離れていたもので、Dr やスタッフ、他部署にご迷惑をかける事も多々あると思いますが、初心に戻り、自分の看護理念でもある「愛情と思いやり」をもって、職責を果たしたいと思っています。

奇跡の生還。其の三

西宮渡辺病院 院長 蓮池 康德

胃がんの時の全摘出術は今では機械吻合が一般的となっているが、今から30年ほど前は大変な手術であった。機械吻合が世に出たばかりで、あの、奥深い血流の悪い食道と小腸の吻合をほとんど手縫いしていたのである。白い巨塔の財前教授が世界的にもはやされたのも、食道の手術を手縫いの技術でそんなに早くできる人がいなかったからで、さらに財前教授の時代はエーテル麻酔の時代で、麻酔時間にも制限があったから、なおさらであった。これはもう30年くらい前の話である。

其の若い患者さんは胃に大きな癌があり、全摘の手術を受けられた。僕が主治医であった。術後1か2日目40度以上の熱が出だした。多分縫合不全であろうと、吻合部透視をしたところ、ひげのような造影剤のもれが見えた。これなら、minor leakと安心した数分後、肺のところをみて驚いた。造影剤によって、右肺全体が真っ白に描出されだしたのである。Major leak！しかも、膿胸の状態。これはほとんど致命的であった。すぐさま、ICU。トロッカーを2本挿入。1日に4回洗浄し続けた。ところが、其の患者さんはその日を境に敗血症となり、意識不明の昏睡状態となった。当然挿管。僕は奥さんに日に1度から2度毎日の状態を報告した。そして、1週間後意識は幸いにも戻ったが、膿胸は治まらず、その後、炎症状態が治まるまで半年はかかった。しかし、leakテストをして大丈夫と思っても食事をさせるのがこわかった。そして、洗浄は洗うスペースがなくなる

まで続いた。結局この患者さんは僕の研修が終わる2年間ずっと入院しておられ退院された。奇跡であった。

ただ、奇跡はそれにとどまらなかった。其の患者さんはそんな進行がんであったにもかかわらず、再発もなく、10年以上たち忘れかけていたときに僕の目の前に現われた。向こうはさんざん探したらしく、今度は皮膚にできた腫瘍をとってくれという。その後また、何年も音信不通であったが、僕の転勤した病院を探し当てて再度来られ、今度は大腸がんだというのである。これも、手術して未だ再発なし。

人に運命があるとすれば、なんと大変な人生であったことか。その要となるところでお手伝いできたことは嬉しいが、その重さにつぶれそうになってしまうのである。其の昔若かったころ、意気盛んで何でもできると思っていて、未熟だったころは、人から信頼されて難しい手術をして命を助けることが、非常にかっこよく(あまり適当でないかな)、憧れていた時代であった。後年自分が曲がりなりにも、そのような立場になったときには、そのような感覚は跡形も無くなって重荷だけを背負ってしまうのである。技術ははるかに上達しているのに怖くなるのである。今回の奇跡も、そんな未熟者であったからこそ、他の人が無駄と思えることもいとわず、努力した賜物であろう。良くなってほしいと思う一念でおこったものと思われる。



当法人は看護師を募集しております

西宮渡辺病院、西宮渡辺心臓・血管センターでは看護師を募集しております。常勤勤務・パート勤務などご相談に応じます。まずはご連絡下さい。

0798-74-1771 事務部長 山岡



むろかわNewsに対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。
※ 当院各階詰所・1F出入口に設置しております「ご意見箱」をご利用ください。

編集
広報委員会